



# 勝林寺寺報

能発一念善発心

不斷煩惱得涅槃

凡聖逆説共廻入

如衆水入海一味

六月の初めの一週間、一年ぶりに豊岡で『おんぶの祭典』が開催されました。今年で第七回となるのですが、昨年はコロナのために中止でした。立ち上げからかわっている私としては、今年はコロナ対策しながらも開催でき、みんなで事故なく楽しめ、多くの人に喜んでいただけて本当に良かったと胸をなでおろしております。そもそもこの『おんぶの祭典』というのサブタイトルが“子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭”となつていて、世界で活躍する音楽家と触れ合う機会を通じて、子どもたちが豊岡にいながらにして世界とつながることができる、そんな豊岡のまちを誇りに思う子どもを育てることをテーマに、二〇一四年に市民の熱い思いで始動しました。昨年は、知らない人はいない偉大な作曲家ベートーヴェンの誕生二十五〇年という年に当たり、ベートーヴェンの曲を中心に大々的に演出する企画を準備していましたが、コロナの影響で中止せざるを得ませんでした。今年は感染対策も十分に行い、少し規模は落としながらも、『( )とし』も、『ベートーヴェン』といえど「交響曲第五番・運命」の“じやじやじやジャーンー”のフレーズしか頭に浮かばない私なのですが、『おんぶの祭典』に関わる中でもう一つ知りました。小学校のころ歌わされた“晴れたる青空 ただよう雲よ 小鳥は歌えり 林に森に 心はほがら

か笑顔。という「喜びの歌」は、ベートーヴェンの最後の交響曲、年末にあわいこちらで歌われている「第九」だったのです。「運命」と「第九」。音楽室に飾られている厳しい形相のベートーヴェンの人生は色々あったようで、人生最後の交響曲「第九交響曲」がつくられたころ、彼の両耳は聞こえなくなっていたのだそうですね。悲しく、苦しく、つらい人生の中で、

「喜びの歌」を最後の曲として残したベートーヴェンはやはり偉大です。

洋の東西を問わず、宗教の違いを超えて、音楽ジャンルの枠など無視して、それどころか人類という枠さえ超えて、あらゆる命の営みの目指すところは「喜ぶ心」なのではないでしょうか。

親鸞聖人もお正信偈のこの句の中でそのことを示しておられます。そしてお正信偈の終わりたあとに唱える四句「願以此功德、平等施一切、同發菩提心、往生安樂國」は現代語で「ほとけのみ名を聞きひらき、こよなき信をめぐまれて、よろこぶこころ身に得れば、さとりからずさだまらん」となっています。最近少し唱える機会が減ったように思いますが、五十年前の親鸞聖人大遠忌法要のころ、お經を現代語訳する運動がありました。その一環で、私の母（前坊守）は婦人会などではいつも現代語訳でお勤めしていました。“よろこぶこころ身に得れば、さとりからずさだまらん”。私もありがとうございました。幼少のころ変調な母の声に刷り込まれて、幼少のころ変調な母の声に刷り込まれて、

るようになります。（文責 住職）



## ご案内

### 永代経法要

ようやく緊急事態宣言が解かれました。ワクチン接種も進んでまいりました。とはいって、新しい変異株に対する不安がないわけではありません。

できる限りの感染対策を講じて、永代経をお勧めいたします。どうぞお参りください。

期日 七月八日午後七時半より  
七月九日午前十時より  
講師 長寿寺( )住職 玉岡 祐教師  
\*町内の( )法中様の出勤は辞退させていただきました。法話はオンラインでお願いします。

期日 七月八日午後七時半より  
七月九日午前十時より  
講師 長寿寺( )住職 玉岡 祐教師  
\*町内の( )法中様の出勤は辞退させていただきました。法話はオンラインでお願いします。

期日 七月三日(火) 兵庫教区 教区会  
二四日(土) 森戸卓也宅 一七回忌  
寺族同朋講座 西宗寺

期日 七月三日(火) 兵庫教区 教区会  
二四日(土) 森戸卓也宅 一七回忌  
寺族同朋講座 西宗寺

期日 七月三日(火) 兵庫教区 教区会  
二四日(土) 森戸卓也宅 一七回忌  
寺族同朋講座 西宗寺

三日(土) お磨き 清掃奉仕  
八日(木) 勝林寺 永代経

三日(土) お磨き 清掃奉仕  
八日(木) 勝林寺 永代経

三日(土) お磨き 清掃奉仕  
八日(木) 勝林寺 永代経

### 七月 勝林寺 予定

(敬称略)



葬儀

六月二十五日

出合市場 大石純一郎様 七十歳

その意味では、それからの親鸞聖人の生涯は、ひとえにこの法然上人との出会いにもとづいてこそ成り立つといったといいうるでしょう。

ちに親鸞聖人は、師の法然上人をたたえて、「阿弥陀如来化してこそ、本師源空としめしけれ」「本師源空いまさすば、このたびむなしすぎなまし」

などと語られております。この源空(法然)上人とは、アミダ仏の私に対する化現であり、私はこの法然上人に出会わなかつたならば、むなし人生をするさなければならなかつただらうに、まことにありがたく、しあわせであることよ、という意味であります。また親鸞聖人は、

「たとい地獄なりとも、故上人のわたらせたまうところへ、まいるべしとおもうなり」ともいわれております。もつて親鸞聖人が、この法然上人をどれほどしたわれたかがよくうかがわれるところです。親鸞聖人はその生涯を通じて、この法然上人を「よき人」とよんで尊敬されました。そしてまた親鸞聖人は、念仏の道において、自分の先輩であった聖観と隆寛の二人についても、とともに「よき人」とよんで深くしたわれています。親鸞聖人の人生は、ひとえにこの「よき人」たちとの出会いによってひらかれて、それにもとづいて生きていったわけであります。親鸞聖人はその出会いのことを、「值遇(ちぐう)」といいあらわしていますが、辞書によると、値遇とは寸分の違ひなくぴたりあうこと意義する言葉だといわれます。親鸞聖人が法然上人たちとの出会いを、「值遇」といわれたのは、深い実感がこもつていたであろうことを思わずにはおれません。

私は宗教的体験—信心といつものほ、「」の

ような「よき人」に出会うという、人間との「出会い」なくして成り立ちえないと思いま

す。よき人に出会つたという感慨なくして、どうして仏に出会い、信心を生きることがで

きましょか。信心を得るということは、教えに出会い、まことの道を発見することであ

るかぎり、それは必ず、人との出会いを通じこそ、成り立つるものだと考えられます。

それは私のまことにあります。この源空(法然)

に思うことであります。

そしてこのような宗教的な体験をもたらす

は異なることです。この世のふつうの出会い

は、そのことをとおして、私が相手のために

尽くし、またはその相手から何かをしてもら

うということですが、宗教的な意味での出会い

いでは、そのことによって、私自身のいまま

でのあり方がきびしく批判され、私自身が破

られていきます。私にとって教えというものが

は、つねに私のあり方を批判し、私の眼をひ

らかせ、私をみぢびき育ててくれるものです。

その意味において、教えとは、それを学ぶも

のにとつては、どんなさきやかなものであろ

うとも、きびしくいたいものです。もしもそ

の教えがすこしもきびしく感じられないかぎ

り、それはどれほど立派な言葉であるうとも、

もはや教えではなく、たんなる小言でしかあ

りません。私が教えに出会い、それを学ぶと

私自身の現実の姿が、深くかえりみられ、破

## 法語カレンダー (七月)

人間は我を知らず  
我ほど知り難いものはないものである

高光 大船

どすん

私の住む町では、ペットボトルの収集は月に一回しかありません。もしも、出すのを忘れるとなか月間ペットボトルの入ったゴミ袋と共生しなくてはなりません。だから、前日に用意をして、朝は散歩に出る前に玄関まで

出でて、ちゃんと準備は整えていたのです。

トボトルの入ったゴミ袋と共生しなくてはなりません。だから、前日に用意をして、朝は散歩に出る前に玄関まで

出でて、ちゃんと準備は整えていたのです。

生ごみは、早く出すとカラスの餌食になるので時間ギリギリに出しますが、ペットボトルはそんなことはないので、七時半(?)の出勤する若院に「行ってらっしゃい」に「出しどいて」を加えればすべて完了一のはずだったのですが、「行ってらっしゃい」しか言わなかつた。(と、あとで氣付いた)でも、今までにも何回も頼んでいるのだからきっと出していてくれるだろうと思つていて。甘かった。朝ドドを見て、あさイチを少し見たあたりで、玄関を見に行つたら、私が置いたそのままの位置にそれはあつた。「なんでー」「普通出すやろー」と心の中で悪態をつく。怒りのぶつけ

た。(と、あとで氣付いた)でも、今までにも何回も頼んでいるのだからきっと出していて

くれるだろうと思つていて。甘かった。朝ド

ドドを見て、あさイチを少し見たあたりで、玄

関を見に行つたら、私が置いたそのままの位

置にそれはあつた。「なんでー」「普通出すや

ろー」と心の中で悪態をつく。怒りのぶつけ

た。(と、あとで氣付いた)でも、今までにも何回も頼んでいるのだからきっと出していて

くれるだろうと思つていて。甘かった。朝ド

ドドを見て、あさイチを少し見たあたりで、玄

関を見に行つたら、私が置いたそのままの位

置にそれはあつた。「なんでー」「普通出すや

ろー」と心の中で悪態をつく。怒りのぶつけ

た。(と、あとで氣付いた)でも、今までにも何回も頼んでいるのだからきっと出していて

くれるだろうと思つていて。甘かった。朝ド

ドドを見て、あさイチを少し見たあたりで、玄

関を見に行つたら、私が置いたままの位

置にそれはあつた。「なんでー」「普通出すや

ろー」と心の中で悪態をつく。怒りのぶつけ

た。(と、あとで氣付いた)でも、今までにも何回も頼んでいるのだからきっと出していて

くれるだろうと思つていて。甘かった。朝ド

ドドを見て、あさイチを少し見たあたりで、玄